

問1 2021年の農業統計において、千葉県は農業産出額が3,853億円にのぼり、全国でも有数の農業県となっています。この県で、農業産出額のうち野菜と畜産の合計が全体の約3分の2を占めている理由として、地理的な背景をふまえて説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 巨大な消費地である首都圏に近く、輸送コストを抑えながら鮮度が求められる野菜や畜産物を出荷できるため。
2. 広大な十勝平野のような平坦地を活かして、機械化による大規模な畑作や酪農が展開されているため。
3. 黒潮の影響による温暖な気候を利用し、ビニールハウスなどを用いて野菜の収穫時期を早めているため。
4. 傾斜の多い地形を活かして、水はけの良さを必要とする果樹栽培が古くから地域の主産業となっているため。

問2 東京都の南に位置し、相模湾に面するある県について述べた文として、統計上の特徴と合致する名称を選択してください。この県は京浜工業地帯の中核をなし、製造品出荷額等が極めて高い規模を誇る一方、水稻の作付面積はわずか0.3万ヘクタールと少なく、就業者数の約78パーセントをサービス業などの第3次産業が占めています。（2022年 愛知公立入試 類似）

1. 神奈川県
2. 北海道
3. 沖縄県
4. 岩手県

問3 1980年から2020年にかけての人口増減を示した資料において、東北地方や四国地方では多くの県で人口が減少しているのに対し、関東地方や近畿地方では人口が増加傾向にある府県が目立ちます。このような地域間での人口動態の差が生じている主な要因として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 福岡県公立入試 類似）

1. 三大都市圏において、進学や就職を目的とした地方からの人口流入が続いているため。
2. 農村部において出生率が急上昇し、都市部を上回る自然増が発生しているため。
3. 政府による地方分散政策により、すべての都道府県に大企業の経営拠点が均等に配置されたため。
4. 地価の安い山間部へ工業地帯が移転したことで、内陸部での雇用が大幅に拡大したため。

問4 群馬県の産業やエネルギー事情について述べた文として、統計的な事実と地理的背景に基づいた説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山公立入試 類似）

1. 利根川などの豊富な水資源と地形の起伏を活かし、火力発電よりも水力発電による発電量が圧倒的に多い。
2. 大規模な臨海工業地帯を有しているため、製造品出荷額における化学工業の割合が全国で最も高い。
3. 広大な平野部をすべて農地としているため、製造品出荷額よりも農業産出額の方が大きくなっている。
4. 東京都に隣接しているため、昼間人口が夜間人口を大きく上回る都市型の産業構造となっている。

問5 高度経済成長期の日本では、都市部の人口過密を解消するために、郊外で「ニュータウン」と呼ばれる大規模な住宅地の開発が進められました。東京の多摩ニュータウンにおいて、1975年ごろに出生数がピークを迎えた主な要因として、当時の社会状況をふまえた適切な説明はどれですか。（2024年 佐賀公立入試 類似）

1. 都市部から移り住んだ若い世代による核家族世帯の同居が同時期に集中したため
2. 地方から移住してきた高齢者による三世帯同居世帯が大幅に増加したため
3. バブル経済の影響で、都心から郊外へ移住する高所得者層が急増したため
4. 1990年代の少子化対策により、子育て支援制度が全国に先駆けて充実したため

問6 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県のおける人口統計を確認すると、東京都のみが「昼間人口が夜間人口を上回る」という特徴を持っています。これに対し、他の3県では夜間にその場所に住んでいる人口の方が多くなっています。東京都でこのような現象が起きる主な理由として、周辺の県からどのような目的で人々が流入していると考えられますか。最も適切な組み合わせを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 通勤と通学
2. 観光と買い物
3. 帰省と宿泊
4. 農業と漁業

問7 大都市の人口動態において、常住する夜間人口に対する昼間人口の割合を示す「昼間人口比率」が100%を超える地域が見られる。このように昼間人口の方が多くなる主な理由として、最も適切なものはどれか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 周辺地域から通勤や通学のために多くの人々が流入するため
2. 都心部の地価が高騰し、夜間に居住する人口が増えたため
3. 郊外のニュータウンから中心部へ向かって、定年退職者が移住するため
4. 昼間に中心部から周辺地域へ向かって、働き盛りの世代が流出するため

問8 日本の貿易統計において、輸出額と輸入額の合計が日本国内のすべての空港および港湾の中で最大となっている、千葉県に位置する国際空港の名称を答えなさい。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 成田国際空港
2. 東京国際空港
3. 関西国際空港
4. 中部国際空港

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
巨大な消費地である首都圏に近く、輸送コストを抑えながら鮮度が求められる野菜や畜産物を出荷できるため。
- 千葉県は首都圏という巨大な市場に隣接しているため、生産した農産物を短時間で市場へ運ぶことができます。野菜は鮮度が落ちやすく、また畜産物も消費地に近い場所での生産が有利に働くため、この立地条件を最大限に活用した農業が発達しました。他の選択肢にある大規模畑作は北海道、促成栽培は高知県や宮崎県などの特徴です。
-
- 問2** **答え 1**
神奈川県
- 東京都に隣接する神奈川県は、横浜市や川崎市といった工業都市を抱え、京浜工業地帯の重要な拠点として高い製造品出荷額等を維持しています。その一方で、急速な都市化の影響により農用地は極めて限定的となり、膨大な人口を背景とした商業やサービス業、情報通信業などの第3次産業が産業構造の大部分を占めているのが大きな特徴です。
-
- 問3** **答え 1**
三大都市圏において、進学や就職を目的とした地方からの人口流入が続いているため。
- 日本の人口動態は、出生数と死亡数の差による「自然増減」だけでなく、移動による「社会増減」が大きく影響しています。関東地方や近畿地方といった大都市圏は、経済活動の中心地であり、教育機関や雇用機会が集中しているため、地方から若年層を中心とした人口流入が継続的に発生し、人口増加や維持につながっています。
-
- 問4** **答え 1**
利根川などの豊富な水資源と地形の起伏を活かし、火力発電よりも水力発電による発電量が圧倒的に多い。
- 群馬県は「水と緑のキャンプ場」と称されることもあるように、利根川の源流域を含む豊かな水資源に恵まれています。内陸県であるため、燃料の輸入に有利な沿岸部のような大規模な火力発電所が少ない一方で、山地から平地へ流れる水の落差を利用した水力発電が古くから発達してきました。また、製造品出荷額が約7.8兆円と農業産出額（約2,463億円）を大きく上回っている点も重要な特徴です。
-
- 問5** **答え 1**
都市部から移り住んだ若い世代による核家族世帯の入居が同時期に集中したため
- 高度経済成長期、東京などの大都市圏では就職のために地方から若者が流入し、深刻な住宅不足と人口過密が問題となっていました。これに対応するため開発された多摩ニュータウンには、1970年代半ばにかけて、結婚を機に親と離れて暮らす「核家族」世帯が一斉に入居しました。同年代の若い夫婦が同時期に子育てを始めたため、特定の時期に地域の出生数がピークを迎えることとなりました。
-
- 問6** **答え 1**
通勤と通学
- 東京都には約81万もの事業所や179校に及ぶ大学などの教育機関が高度に集中しています。そのため、周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県から仕事や学びのために多くの人々が移動してきます。このように、ある地域に住んでいる「夜間人口（常住人口）」に対し、他の地域から流入する人々を加えた「昼間人口」が上回る現象は、大都市の中心部で顕著に見られる特徴です。
-
- 問7** **答え 1**
周辺地域から通勤や通学のために多くの人々が流入するため
- 東京都や大阪府などの大都市圏には、官公庁、企業のオフィス、大学などの教育機関が集中している。そのため、居住地である周辺の県から、日中に仕事や学業のために多くの人々が移動してくる。この「流入」によって、夜間に住んでいる人数よりも日中に滞在する人数の方が多くなり、昼間人口比率が100%を超えることになる。逆に、周辺の県は居住機能が中心となるため、比率が100%を下回ることが多い。
-
- 問8** **答え 1**
成田国際空港
- 千葉県にあるこの空港は、1978年の開港以来、日本の空の玄関口として機能してきました。重量の大きい貨物を扱う名古屋港などの海港に対し、航空機輸送が主となるこの空港では、IC（集積回路）や医薬品といった「軽量で高付加価値な製品」の取引が盛んであるため、貿易額で日本一位となっています。